

環境情報を企業価値評価に活用するための考え方 に関する報告書

令和元年7月12日（金）
環境省 大臣官房環境経済課
菅生 直美



未来のために、いま選ぼう。



持続可能な社会の実現に向けた ESG 金融の主流化

- 脱炭素社会、持続可能な社会への戦略的シフトこそ、我が国の競争力と「新たな成長」の源泉
- ESG金融へとシフトする金融のリーダーシップが求められている

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2°C目標



PARIS2015
CONFÉRENCE DES NATIONS UNIES
SUR LES CHANGEMENTS CLIMATIQUES
COP21- CMP11

長期的視点の
ESG投融資

ESG
投資家
金融機関

ESG情報
開示と対話

ESG・SDGs
課題に取り組む
企業／事業



投資家
金融機関



ESG対話プラットフォーム



RE 100



ESG・SDGs課題
に取り組まない
企業／事業

環境省の
ESG金融
推進策

1

ESG投融資の
加速化・普及の支援

2

ESG情報開示
の促進・基盤整備

3

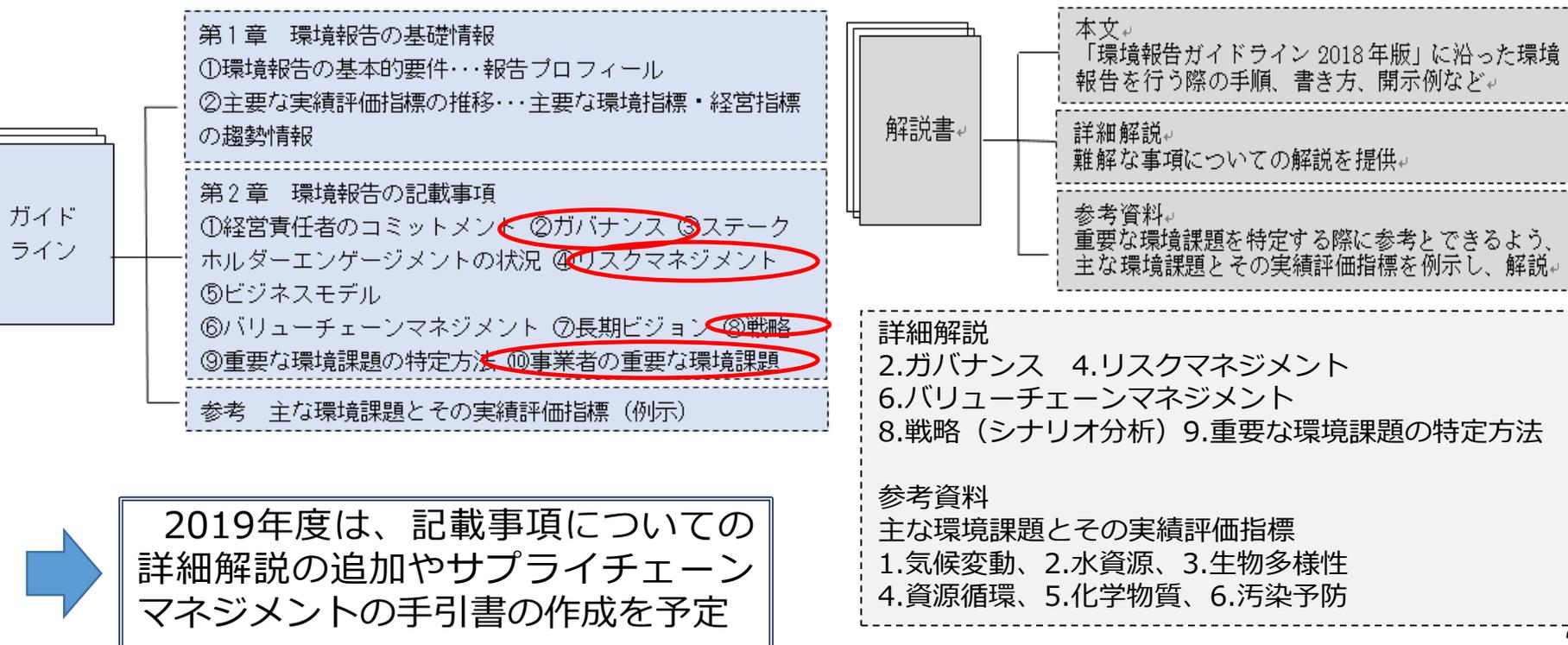
企業行動や事業のシフトを
ESG金融を通じて促進

ESG情報を巡る充実した対話の促進

1

環境報告ガイドラインの改訂

- 環境報告をESG報告の枠組みで利用する、投資家の情報ニーズに配慮。
- 従来型の環境マネジメント情報に加えて、事業者の組織体制の健全性や経営の方向性を示す、将来志向的な情報提供。



シナリオ分析実践ガイド



TCFDを活用した経営戦略立案のススメ
～気候関連リスク・機会を織り込むシナリオ分析実践ガイド～

環境省地球温暖化対策課
2019年3月

以下より入手可能です。
<http://www.env.go.jp/policy/tcfd.html>

企業ニーズ

そもそもTCFDとはなにか、どのような気候変動関連の開示が推奨されるかを知りたい

日本企業が実際にシナリオ分析を行った事例を分析ステップごとに知りたい

シナリオ分析の開示をどのように行うのか、例を見たい

シナリオ分析においてリスク重要度評価をする際に、参考となるような文献を知りたい

実践ガイドの章立て・概要

第1章 TCFDとは
TCFD設立の目的やTCFD提言の内容について、どのような気候変動関連の開示が推奨されているのかを解説する

第2章 シナリオ分析実践事例
今回の環境省の支援事例をもとに、シナリオ分析をどのように行うかを解説する

第3章 シナリオ分析の開示事例
TCFDが推奨するシナリオ分析のステップとともに、開示例を紹介する

第4章 各セクターのリスク重要度参考資料集
支援事業でリスク重要度評価に参考にした資料をもとに、シナリオ分析を行う際の素材を提供する

- 実践ガイドにおける、TCFDのシナリオ分析の手法は、シナリオ分析に係る技術的補足書（“TCFD Technical Supplement: The Use of Scenario Analysis in Disclosure of Climate-related Risks and Opportunities”(2017.7)）に加え、独自の方法論と解釈も踏まえて作成したものです。
- 各事例における数値情報については、作成時点の情報を基にしたものです。

3

ESG対話プラットフォームの整備

- 金融セクターと事業セクターのESG情報に基づく対話の促進。



【情報開示、対話促進のための2019年度のプログラム】

プログラム1：環境情報開示支援講座

新たに投資家向けに環境情報の開示をしたいとお考えの企業様向けに、情報開示のポイントについて理解を深めていただく講座

プログラム2：ESG相談会

ESGの取組や情報開示について、一度に複数のESG専門の投資家と対話ができる機会の提供（第1回締切 7/19）

詳しくは <http://www.env.go.jp/press/106888.html>

ESG投資の加速化に向けた取組

- 投資家による自律的な**ESG投資の実務、実践面の実力向上**を支援

1

「ESG投資の基礎的な考え方」の整備

(2017年1月公表)

2

環境情報を企業価値に活用するための考え方の整理

(2019年5月公表)

3

環境サステナブル企業評価の方法論の整理

(2019年7月公表)

- 環境情報を企業価値評価に役立てるための基本的な考え方を整理し、投資家が環境情報を利用する際のアプローチを事例とともに提供。
- 中長期的な時間軸でリターンの獲得を志向する機関投資家を念頭に取りまとめ。企業による投資家との対話の参考になることも期待。

第1章 ESG投資における環境情報に関する基本的考え方

環境情報を企業価値評価に役立てる際の基本的な考え方を、「企業価値とマテリアリティ」「時間軸」「空間軸」「マテリアルな環境情報」「対話の重要性」「ESG投資体制の構築」に分け説明

第2章 環境情報の見方

環境問題への取組能力の分析・評価を行い、重要な環境課題に関する建設的な対話を行うためのポイントを整理

背景事情の分析と理解

重要な環境課題関連のリスク・機会分析

環境課題に関する戦略の確認

重要な環境課題に関連するリスク・機会のマネジメントの分析

目標とパフォーマンスの分析

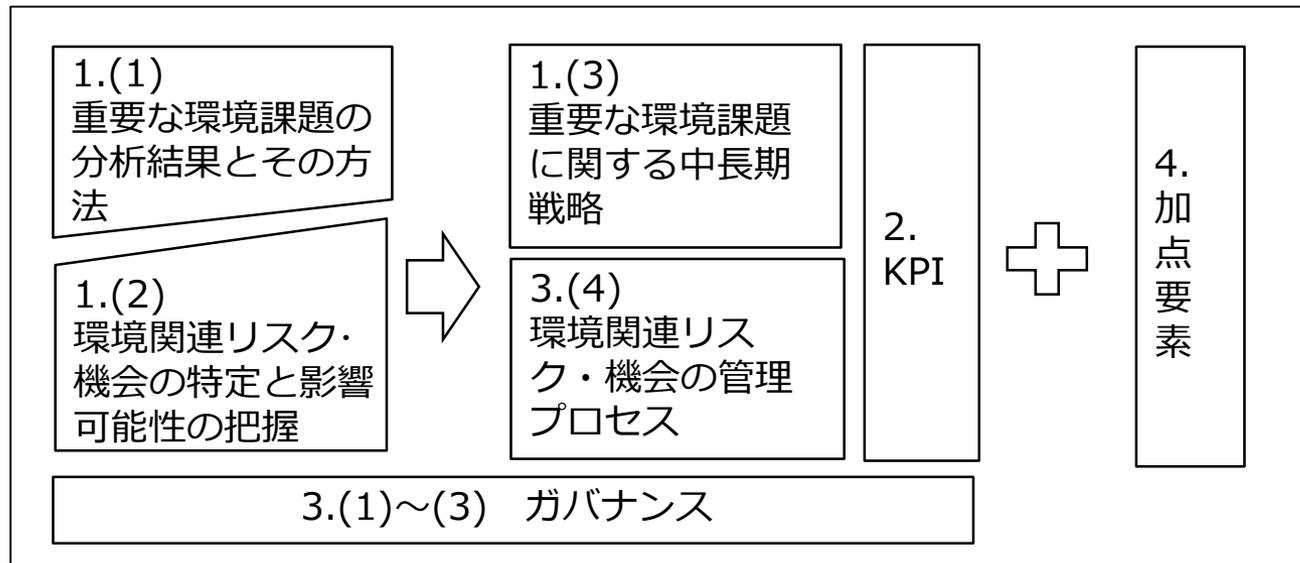
リーダーシップとガバナンスの分析

第3章 環境情報を読み解く手引き

- 企業価値に関連しうる5つの主要な環境課題分野を取り上げ、課題の特性や政策動向を記述
- バリューチェーン上の中長期的に重要となる環境課題に関連する背景事情と、主なリスク・機会を例示

バリューチェーンの構成要素		環境関連の内部要因	環境関連の外部環境（背景事情）	リスク・機会の例
項目	環境要因			
(1)原材料・エネルギー	①エネルギー	エネルギー資源に関する権益や設備の有、開発・生産	（気候変動）世界的な需要増加、一部の資源の有限性 パリ協定発効を受けた中長期的な気候変動対策の進展 「座礁資産」に関する議論の高まりによる、化石燃料事業に対する姿勢を変化させる投資家の出現	エネルギー資源に関する資産価値の変化 エネルギー資源の需要や価格の変化 エネルギー生産企業に対する気候変動関連の訴訟の発生

- 環境要素を企業経営などに戦略的に取り組んでいる「環境サステナブル企業」を投資家が評価する際に参考となる評価軸と評価の視点を公表。
- 環境要素が企業価値に与える影響の理解と環境要素を踏まえた経営とその状況の開示促進。



評価軸と評価の視点を活用した表彰制度を本年度新設予定

ご清聴ありがとうございました。